

栃木県中学校総合体育大会 バドミントン大会

【感染防止対策】

1. 点数制限

すべての試合を、15ポイント3ゲームマッチで行う。

2. 入場制限

- ・生徒の入場は、団体戦は出場選手と3年生部員のみ、個人戦は出場選手のみとする。
- ・保護者の入場は、両日とも3年生の出場者の保護者のみ、選手1名につき保護者1名を認める。

3 新型コロナウイルス感染防止対策

(1) 生徒、引率者、保護者の健康状態確認

会場に入場する者は全員（保護者も）、各学校に集合し、顧問が当日の健康状態を確認、体調不良者は帰宅させる。また、家族に発熱等の体調不良者がいる場合も大会への参加を控えさせる。会場への入場は、保護者も含め顧問の監督の上で学校ごとにまとまって行うこと。個別の入場は認めない。

- ・顧問は、生徒の体調を、各学校で使用している体調チェック表等を用いて確認する。
- ・顧問は、保護者の体調を、「健康チェックシート（保護者用）」を用いて確認する。
- ・顧問は、「学校同行者体調記録表」に会場入場者全員の体温や体調を記入し、入場時に提出する。※団体戦については、「県北体育館入場者名簿」も作成、提出すること。
- ・必要な様式は栃木県中体連バドミントン専門部のホームページからダウンロードして使用すること。

①選手の対策

- ・トイレの後や試合後、審判を行う前などこまめな消毒をする。
(専門部が水道やトイレ、各コート、本部等に消毒を設置)
- ・競技や準備運動などの身体活動以外の場面でのマスクの着用を義務付ける。
熱中症予防の観点からその限りでない場合もあるが、体育館内では常時着用する。

②指導者の対策

- ・マスクの着用を徹底する。
- ・専門部で用意したアルコールを本部に常備し、こまめに消毒を行う。
- ・生徒の体調不良時や緊急時の対応のため、保護者と連絡がつく状態を常時確保しておく。(各校で保護者に事前に周知すること)
- ・IDカードの着用を徹底する。

③保護者の対策

- ・マスクの着用を徹底する。
- ・学校ごとに朝の入場までにIDカードを配布し、会場内での着用を徹底する。
IDカード不所持の場合は、退場していただく。
- ・こまめに手指消毒を行う。

(2) 施設・設備面での対策

- ・試合への影響を考慮した上で、できる限り窓とドアを常時開放する。
(換気と、ドアへの接触防止)
- ・生徒の控え場所は、3密防止に配慮した場所とする。
- ・会場使用後の消毒は教員(各校バドミントン部顧問)が行う。
- ・開場までの時間、入り口付近が密にならないようにする。
(早く来場しすぎない できるだけ車内で待機)

(3) 競技に係る対策

①試合前について

- ・開閉会行事を行わないが、競技開始前に選手を十分に分散させた状態で競技場の注意や会場使用上の注意を伝える時間を設ける。
- ・試合開始前は互いの間隔を1m以上空けて、ネットを挟んで整列し、審判の合図で挨拶を行う。握手は行わない。
(ショートサービスラインあたりに整列する)
- ・試合前の円陣は行わない。

②試合中の対策

- ・シャトルの受け渡しの際に手を極力使わない。
- ・シャトルに顔を近づけない。
- ・シューズの裏を手で触らない
- ・他人のタオルやドリンクなどには触らない。
- ・ラリー前や得点後などハイタッチや大声を出さない。
注意に従わない場合にはフォルトとすることがある。
- ・コートサイドには、選手が使用するカゴを設置しない。
各自バッグを持参させ、水筒やタオルを入れる。
- ・シャトル交換はコートごとにカゴを用意する(新品用、使用済み用の2つ)。
主審はシャトルが不足したら本部に回収カゴをもってくる。

大声で叫ばない。
自分に言い聞かせる程度。

③審判について

- ・マスクを着用して審判を行う。
(水分補給を促し、熱中症対策を講じる)
- ・主審は得点をコールしない。得点板表示のみとする。
- ・審判に入る前に、コートに用意してあるアルコールで手を消毒する。
- ・主審はスコアシートを記入する際、自分の筆記用具を使用する。
- ・スコアシートは勝者が本部に持ってくる。

アルコールは各コート得点板の位置に設置する

④主審のコールについて

- 1：これから〇〇さんと△△さんの試合を行います。
- 2：じゃんけんでサービス・レシーブかコートを決めてください。
- 3：15ポイント3ゲームマッチ ラブオール プレイ
- 4：（試合後整列させて）〇〇さんの勝ちです。
- 5：勝った選手にスコアシートを渡す。

⑤応援について

- ・応援は、声援を不可とし、拍手のみとする。
- ・応援する際には間隔を十分にとり、密を避ける。また、手すりにはできるだけ触れないようにする。

参考：「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン」
公益財団法人 日本バドミントン協会